

## 第5章 地域別の特性と今後の施策展開

本市は、地域が歩んできた歴史や地理的条件などの特性から、北部・東部・中部・西部・中央山間の5つの地域に分けられます。

本章では、第4章までの市全体のまちづくりとの整合を図りながら、これら5つの地域の特性を生かしたまちづくりを進めるため、地域ごとに現状と課題を整理し、めざすべき施策展開の方向性を示します。また、これら地域のまちづくりにおいては、地域住民の参画と協働を進めながら、本市の魅力アップを図っていきます。

### 第1節 北部地域

#### (1) 地域特性

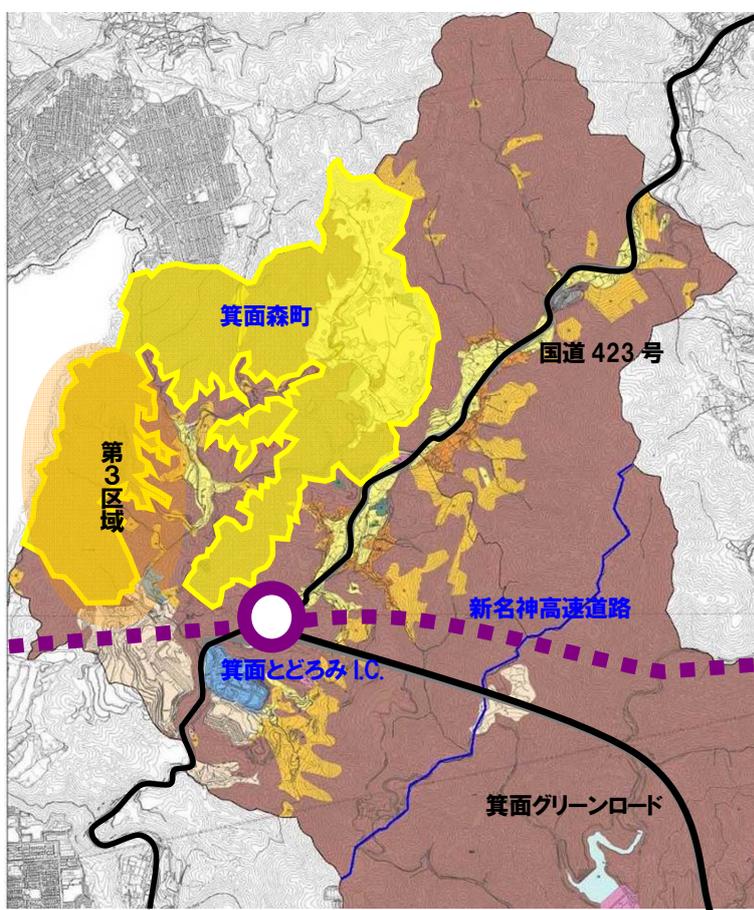
市北部の山間地域に位置し、地域の大半が樹林地で豊かな自然環境を有する地域です。地域中央部を流れる余野川沿いの止々呂美地区には農地と昔からの集落が広がっており、水量が豊富な余野川では渓流釣りが楽しめます。

産業は主に稲作と、柚子・びわ・栗・山椒などの伝統ある果樹栽培など農林業が中心に行われており、のどかな里山の風景が残っています。

人口は、市の他の地域に比べて少なく、旧集落地である止々呂美地区では人口減少と高齢化が進行しており、農業の後継者不足が深刻化しています。

一方で、地域西側の丘陵地では、大阪府が箕面森町の整備を進めており、2007年度(平成19年度)のまち開き以降、人口が増加し、多世代共生・環境共生・地域共生をコンセプトとしたまちづくりが進んでいます。

これまで懸案であった交通の利便性については、箕面グリーンロードや市道止々呂美東西線などの開通に加え、新名神高速道路の開通により、さらなる利便性の向上が期待されます。



## (2) 現状と課題

北部地域は、昔からの集落と新しいまちが共存する地域へと変わりつつあります。箕面森町では、とどろみの森学園（箕面市立止々呂美小・中学校）が2008年(平成20年)に小中一貫校として開校し、2011年(平成23年)には同一敷地内に認定こども園（保育所と幼稚園が一体化した施設）が整備されるなど、子育て環境の充実により、特に若年層の人口が増加しています。一方で、人口増に伴う保健・福祉サービスや消防・救急対策など安全・安心の確保や、これまでの止々呂美地区と新しいまちの交流や新たなコミュニティの醸成が課題です。

止々呂美地区では豊かな自然や特産品を活用した地域の活性化が期待されており、2011年（平成23年）に地域活性化や地域交流を目的として設置された止々呂美ふるさと自然館への来訪を始めとして、多くの人々が止々呂美地区を訪れています。

箕面森町は現在、第1区域、第2区域の造成工事が完了し、第3区域で造成工事が進められています。第3区域は、2014年（平成26年）1月に、大阪府戦略本部会議において、基盤整備工事の実施が判断されました。また、2016年度(平成28年度)開通をめざして、新名神高速道路の工事が進められており、(仮称)箕面とどろみI.C.が設置され、箕面グリーンロードと直結されると、近隣のI.C.と比較して、大阪都心部へのアクセス性の良さが格段に優れていることから、その周辺で流通の利便性を生かした企業の立地需要が高まることが期待されます。

今後は、第3区域の工事が着実に進められるよう働きかけるとともに、周辺の自然環境に調和した秩序ある土地利用がなされるよう、本市の良好な住環境に相応しい企業を誘致する必要があります。

## (3) 施策の展開

- 特産品柚子や山椒の6次産業化推進、交通の利便性の向上と観光客の増加を踏まえた朝市の支援、有害鳥獣対策や農業後継者育成などの農業振興策により、柚子、びわ、栗、山椒など地元特産物の生産拡大を図ります。
- 子育て世帯の増加に対応するため、地域での子育てを応援する各種施策を進めます。
- 止々呂美地区と箕面森町の地域交流を促進し、新たなコミュニティの醸成を図ります。
- 近隣市町との連携を進め、止々呂美地域の行政サービスや利便性を高めるための取組を進めます。
- 箕面森町の第3区域については、箕面森町のコネクトにかなった土地利用がなされるよう取り組みます。
- 旧止々呂美小・中学校跡及び余野川ダム用地を活用した「止々呂美ふるさと自然館（本館及び野外活動緑地）」を地域の交流・活性化の拠点として、豊かな自然環境や止々呂美の地域資源を生かした地域振興策を展開します。

## 第2節 東部地域

### (1) 地域特性

東部地域は、勝尾寺川や箕川沿いを中心に昔からの集落と農地が残されており、その周辺部で民間開発などによる市街地整備が進んだ地域です。地域北部の粟生間谷地区では、1970年(昭和45年)頃から民間企業や日本住宅公団(現「都市再生機構」)が行った大規模な住宅開発による住宅団地が形成されています。さらに、地域北部の丘陵地では、茨木市域と一体的に都市再生機構が彩都の整備を進め、着実に人口の定着が進んでおり、美しいまちなみが形成されています。

国道171号沿道には郊外型店舗の立地が進み、商業・サービス施設が沿道に軒を連ねています。地域の南部にあたる小野原地区では、土地区画整理事業などによる計画的な宅地造成が行われ、良好な住宅地が形成されています。

また、粟生間谷地区には大阪大学(箕面キャンパス)が、小野原地区には関西学院千里国際中等部・高等部があり、隣接する吹田市の大阪大学(吹田キャンパス)も合わせ、外国人留学生が多く居住する地域で、東部地区の外国籍市民の比率は市全体の約2倍となっています。

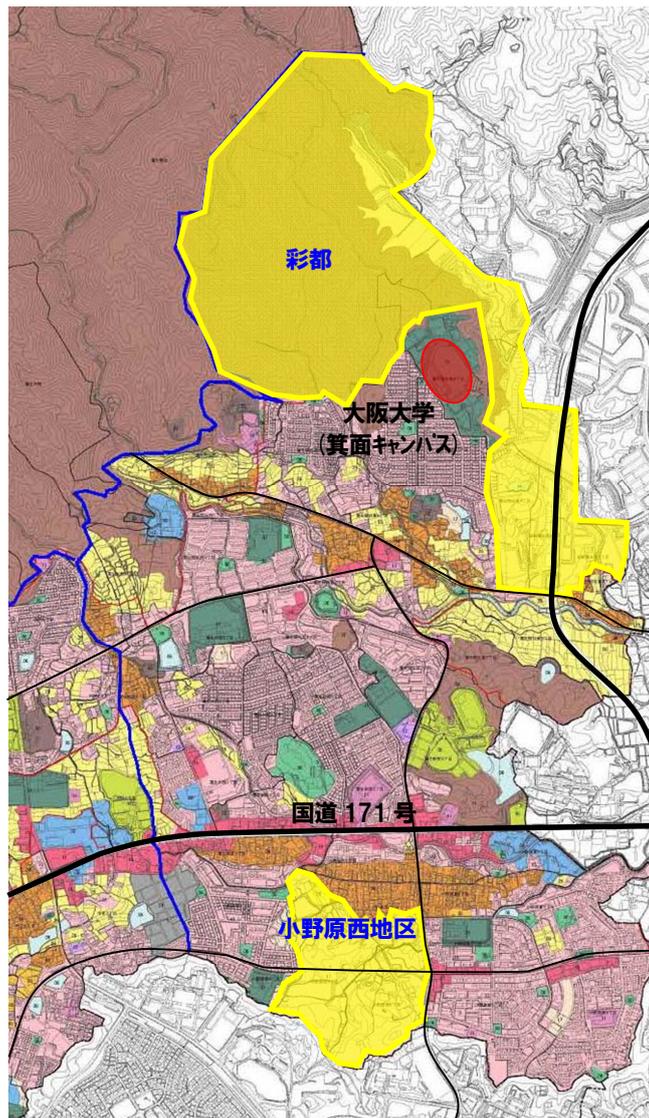
### (2) 現状と課題

東部地域の人口は、現在、彩都地区での増加が著しく、その他の地区では穏やかな増加傾向にあります。

それに伴い、生活サービス施設の立地が促進されるなど、東部地域の利便性向上が期待されますが、同時に、急速な市街地の進展と整合のとれたバス路線網の整備や子育て環境の整備、新たな地域コミュニティの醸成などが課題となります。

懸案であった公共交通の充実については、彩都の整備に伴い大阪モノレール彩都線が整備されていますが、箕面市側からのアクセスは十分とは言えず、東部地域での移動手段の改善が求められます。

また、大阪大学箕面キャンパスが船場地区へ移転した際の、跡地の活用策と地域の活性化策を検討していく必要があります。



### (3) 施策の展開

- 子育て世帯の増加に対応するため、地域での子育てを応援する各種施策を進めます。
- 彩都やその周辺では、施設地区と住宅地区を適切にゾーニングすることにより、多様な都市機能とみどり豊かな住宅都市にふさわしいまちづくりを進めます。
- 国際交流の拠点である多文化交流センターを中心に、大阪大学や船場地区の企業など多彩なプレイヤーとの連携を強化し、多文化共生社会の実現に向けた国際化施策を推進するとともに、若者同士のネットワークづくり、地域活動への参加による世代間交流など地域活性化施策を進めます。
- 彩都、小野原西地区及び既成市街地の新旧の地域コミュニティの活性化を図るため、生涯学習機能の充実、地域活動への参加を通しての三世代交流などを進めます。
- 市内バス路線網の充実のため、交通事業者などと連携し、路線バスなど公共交通を維持・発展させるとともに、鉄道の延伸時には、かやの中央を結節点とするバス路線網を再編します。
- 大阪大学箕面キャンパスの跡地活用策と地域の活性化策を一体的に検討していきます。

### 第3節 中部地域

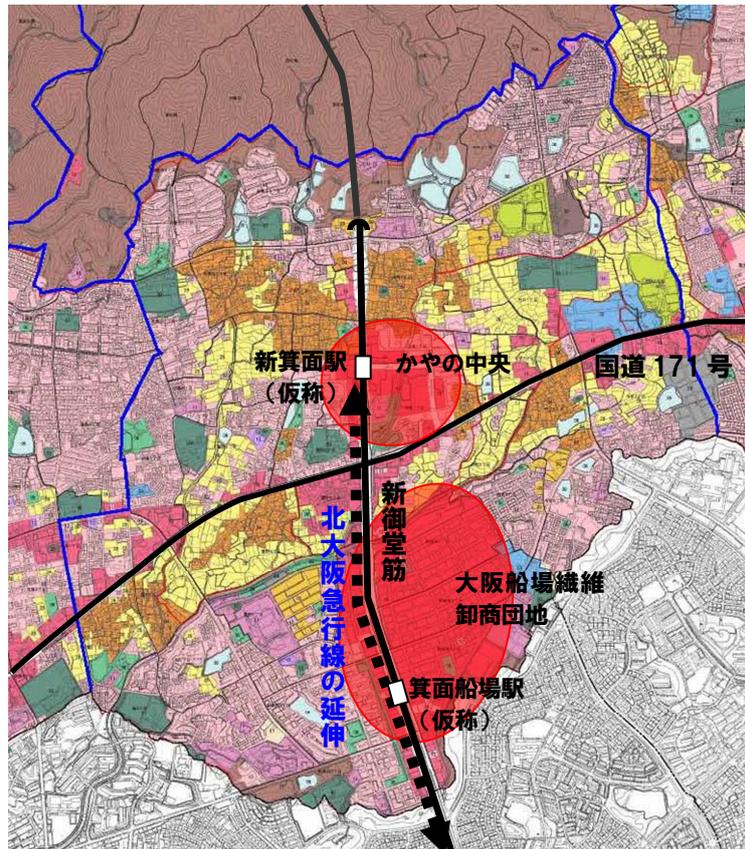
#### (1) 地域特性

農地と昔からの集落で構成されていた中部地域は、東西の広域都市軸である国道171号と南北の広域都市軸である国道423号（新御堂筋）の整備とともに、大阪船場繊維卸商団地を中心に市街化が急速に進行した地域であり、農地など田園的な土地利用と都市的な土地利用が共存する地域となっています。

国道171号と国道423号が交差する中部地域は、地理的には本市の中心に当たる交通の要衝で、都市的に発展する潜在力が高い地域です。2003年(平成15年)にまち開きした「かやの中央」は、周辺に広がる住宅地や自然と共存しながら箕面らしい都市核を形成しています。

北大阪急行線の延伸(2020年度(平成32年度)開業目標)によって、新駅が整備されるかやの中央と船場地区は千里中央につながる広域的な都市拠点形成することになります。

また、地域の南部には、市立病院、豊能広域こども急病センター、総合保健福祉センター、医療保健センター、市立介護老人保健施設など、全市的な保健・医療・福祉の拠点施設が集積しています。



#### (2) 現状と課題

かやの中央に開業した多機能型商業施設は年間1千万人を集客しており、周辺住宅地の土地利用も進んでいます。一方で、開業後45年を経た船場地区はまちの更新期を迎えつつあり、北大阪急行線の延伸と併せて、新たなまちづくりの方向性を描く必要があります。

北大阪急行線の延伸は、本市と大阪都心部を直結する大動脈で、公共交通の利便性を向上させるだけでなく、かやの中央や船場地区の活性化に寄与するとともに、住宅都市としての本市の価値を全体的に高めるものです。併せて、かやの中央を拠点とするバス路線網の再編により、本市の積年の課題である東西方向の交通利便性が高められます。

また、かやの中央の東西に残る市街化調整区域や生産緑地の農地は、市街地に残された貴重な空間で、本市の都市としての魅力を高める重要な要素でもあることから、無秩序な土地利用を防ぐとともに、農業公社による保全と有効活用、朝市などの地産地消の推進など、農地を維持するための対策を進めます。

### (3) 施策の展開

- 環境負荷を軽減しながら大阪都心とのアクセス強化やまちの活性化などを図るため、北大阪急行線の延伸（2020年度（平成32年度）開業目標）に向けて取組を進めます。
- 北大阪急行線の延伸に併せて、東西方向への道路整備の充実や、かやの中央を拠点とした市内循環型のバスネットワークの整備再編を進めます。
- 地元の関係団体、関係者とともに船場地区の活性化を図り、繊維卸売業を根幹としつつ、大阪大学箕面キャンパスの移転をはじめとして新たなまちづくりを進めます。また近隣にある知的資源を活用し、産・官・学・金などの連携により、商業施設やベンチャー企業などの誘致を推進します。
- かやの中央と船場地区、さらには千里中央とを有機的に連携し、お互いの相乗効果による商業・産業の発展を推進します。
- かやの中央を中心とした計画的な土地利用を推進するとともに、周辺部に残る市街化調整区域の農地や山麓のみどり、古くからのまちなみとの調和に配慮した魅力ある都市景観を保全します。

## 第4節 西部地域

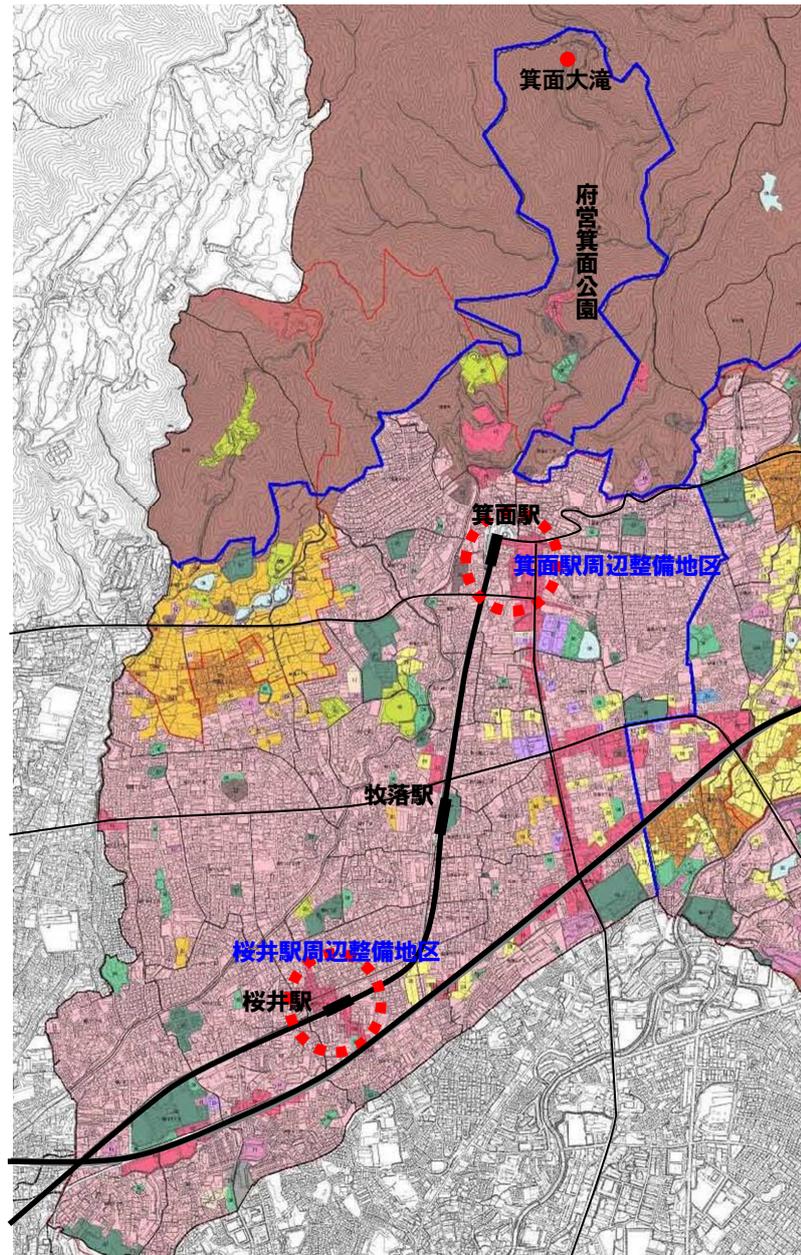
### (1) 地域特性

西部地域は、箕面川が南西方向に流れ、それにはほぼ並行して阪急電鉄箕面線が走っています。1910年(明治43年)に箕面有馬電気軌道(現在の阪急箕面線)が開通して以来、大阪近郊の住宅地として早くから良好な市街地の形成が進んできました。また1922年(大正11年)に桜ヶ丘地区で開かれた「住宅改造博覧会」の瀟洒な洋館スタイルの家並みが今も受け継がれ、周囲の住宅地と良好なまちなみ景観を形成しています。

一方、箕面駅から瀧安寺、箕面大滝にかけての府営箕面公園一帯は、古くから観光地として知られており、市外から多くの来訪者があります。

また、箕面駅周辺は商業施設が集積するとともに、文化・行政施設などが立地していることから生活文化の拠点となっており、桜井駅周辺も日用品を中心とする商業地となっています。

西部地域は、本市で最も早くから市街化した地域で、戸建住宅を中心とした落ち着いたまちなみを形成していますが、まちの更新期を迎えつつあります。



## (2) 現状と課題

西部地域は、市街化の進展により、商業施設をはじめとするさまざまな都市機能が発達してきましたが、近年は、少子高齢化の急速な進行、施設の老朽化、商業の衰退など都市機能の空洞化が課題となっています。本市は、箕面・桜井地区を含む区域を中心市街地と位置付け、箕面商工会議所やTMO組織などと連携を図りながら活性化を図っていますが、今後はこの取組を一層強化する必要があります。

まちづくりの面では、早くから住宅地として開発が進み、敷地規模の大きい良好な住宅地が多く存在しますが、まちの更新期を迎え、建て替えなどの際には、これまで築かれてきた良好なまちなみをできる限り維持し、向上させる取組が必要です。また、桜井駅周辺は、2014年度（平成26年度）に策定した「桜井駅周辺地区再整備計画」に基づき、駅前広場やプロムナードの整備が予定されています。

商業・観光の面では、箕面大滝を中心とする府営箕面公園一帯には、市外から多くの観光客が訪れ、その数は年間百万人以上に及びますが、その多くが市内を回遊することなく帰路につくため、箕面駅周辺の商業施設や商店街を回遊する効果的な仕掛けづくりが課題です。

また、少子・高齢化が進行する一方で若年層の転入が近年増加しており、学校・家庭・地域の連携による世代間交流などの促進を図る必要があります。

## (3) 施策の展開

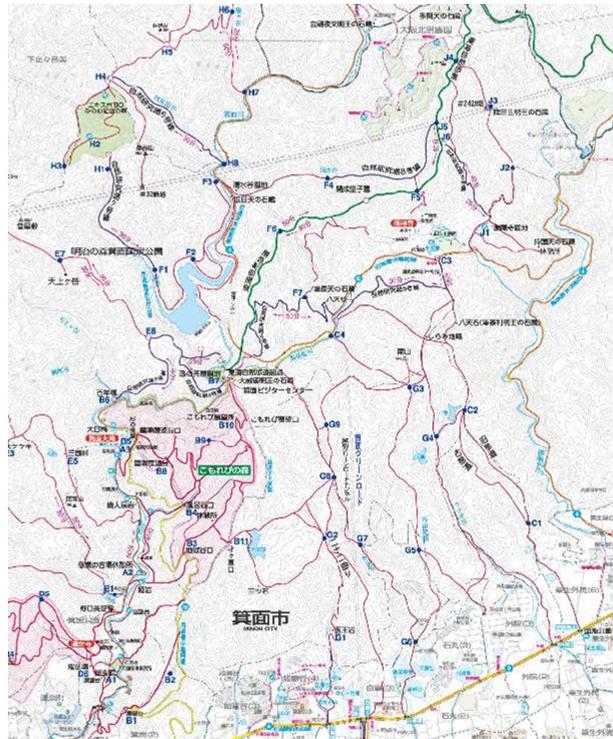
- 箕面駅や桜井駅周辺は、中心市街地にふさわしいまちなみの形成や交通結節点にふさわしい環境整備を図るとともに、地域商業を活性化し、西部地域の利便性の向上を図ります。
- 桜井駅周辺について、「桜井駅周辺地区再整備計画」に基づき、官民の役割分担と協働により駅前地域の再生を進めるとともに、地域資源を生かした地域密着型の歩いて暮らせるまちづくりを進めていきます。
- 府営箕面公園と滝道について、歴史のあるまちなみにふさわしい環境整備を進めます。
- 府営箕面公園内の観光資源を掘り起こして市外へ発信し、さらなる来訪者の増加をめざすとともに、来訪者を箕面駅周辺の商店街に誘導し、まちのにぎわいを創出する取組を進めます。
- グリーンホール移転後も、市民活動の場として稼働率の高い会議室棟は存続させ、ホール跡地を含めた周辺地域の中心的施設として活用します。
- 子育て支援策の強化などにより、新たな人口（特に若年層）の流入を促進します。
- 既成市街地のコミュニティを活性化させ、新たな市民活動団体との連携を図ることで地域の賑わいを創出します。
- 建築物の建て替えの際には、各種条例によりまちなみの維持・向上に努めるとともに、地区計画や建築協定などによる地区独自のルールづくりを進めます。

## 第5節 中央山間地域

### (1) 地域特性

中央山間地域は、本市の約60%を占める広大な山間・山麓部であり、大部分が近郊緑地保全区域に指定されているほか、豊かな森林は水源の涵養と災害の防止などの機能もあわせ持っています。天然記念物に指定された箕面山のサルの生息地をはじめ、多くの動植物が生息する豊かな自然環境が残されているなど、箕面山の自然と滝や渓谷のうみだす見事な景観は文化財としても大変貴重で、1956年（昭和31年）には文化財保護法に基づき、国から「名勝」の指定を受けています。また、明治の森箕面国定公園の「政の茶屋」は、東京都八王子市にある明治の森高尾国定公園まで続く東海自然歩道（全長1,697km）の起点となっているほか、自然研究路や「かちおじ道」として知られる勝尾寺への旧参道なども、多くのハイカーらで賑わいます。こうした四季を通じた自然や史跡を楽しめるレクリエーションの場としても貴重な地域です。

さらに、市街地から眺めることのできる山麓部は、四季折々の表情を見せ、みどり豊かな都市イメージを創出する貴重なシンボルとなっています。



### (2) 現状と課題

2002年（平成14年）に山麓保全アクションプログラムが策定され、山林所有者・市民・行政の三者協働で自然環境の保全に取り組んできました。一方で、ごみや車両などの不法投棄対策の強化や、自然環境の保全意識の高揚が求められます。自然環境とのバランスを保ちながら、恵まれた自然を生かした観光の活性化が課題となっています。

### (3) 施策の展開

- 豊かな自然環境を守り育てるため、山林所有者・市民・NPO・事業者と連携し、自然と親しみながら参加型の保全活動を行うなど、山麓保全アクションプログラムを推進します。一方で、国や府との連携を一層深めて、環境、農林、防災面などから山間・山麓部の保全を進めます。
- みどり豊かな山麓を守り、育て、生かすために、市街地から見える山麓部の保全活動に対し「みのお山麓保全ファンド」による資金応援を継続していきます。
- 豊かな自然と貴重な文化財を生かした新たな観光ルートの開発など、観光の振興を事業者とともに進めます。
- 生物多様性の保全や森林とのふれあいを通じた人との共生を図る観点から、生活環境保全や憩い・学びの場を提供するため、森林施策を推進します。